

# 母親の養育に関する心理学的研究

## — 母親の養育態度と育児感情と子ども観の関連から —

西 村 美保子

はじめに

これまで、母子関係についてたくさんの研究がなされてきた。しかし、母親となる女性の人生や家族のあり方、子どもと大人の関係が流動化し、少子化、高学歴社会、核家族化、情報化など、母親、子どもを取り巻く環境が大きく変化している。それらの影響を受け、母親達は子育てと自己実現、希望と不安のはざままで揺れ動き、日常の生活の中で家族、子どもへの期待を膨らませながらも、さまざまなストレスを抱え、子育てを行っている。

現在子育て中の母親が、子育てに対して何を感じ、子どもをどのような存在として捉えているのか、そして実際どのように子どもに働きかけているのか検討するために、子ども観と養育態度、育児感情の関連を調査する。

方法

調査対象は、就学前の子どもを持つ母親 346 名を対象とした。

調査は、2006 年 11 月から 12 月にかけて、調査目的を記した依頼文と調査用紙及び回収用の封筒を園児に持ち帰らせた。家庭で母親に記入してもらった。

結果と考察

子どもはかわいい、生きがいだ、子育ては楽しいとほとんどの親は考えている。しかし、育児に関する否定的感情が高い母親は、高い肯定的感情を示していても、母親の持つ様々な内容の不安が高く、養育態度では、専制的・一貫性がなく、過剰期待的養育態度であることが明らかとなった。また、育児に対する否定的な感情は、肯定的感情よりも育児感情や養育態度に多大な影響を与えることが示された。さらに、育児能力に対する不安には、専制的な養育態度が関連しており、しつけの自信のなさが、子育ての負担感・疲労感を深め、精神的にも余裕のない関わりになりやすいことを示唆する結果となった。

多くの母親が、母親の精神的健康の必要性を認識している。それでもなお、育児に対する負担感・不安・疲労感が母親の中に生まれ大きくなる。母親がありのままの自分で子育てをするには厳しい世の中である。現在の子どもの関係だけを見れば、親が加害者で子どもが被害者のように見えたり、親の努力が足りないようにみえるだろう。そのため、子どもを助けることだけに目を奪われてしまうかもしれない。しかし、親が支えられ、癒されることなしに子どもと向き合うことはできないかもしれない、単に親を攻めるだけでは何も解決しない。親の心が不安定であればあるほど、子どもを助けることだけでなく、親を支え癒すことをしなければならない。それは非常に難しい作業であるが、今後ますます重要な課題の 1 つだと考えられる。